

議題チーム ワークシート集

(及び追加資料)

2009年3月31日時点での各議題チームの
〈チーム概要〉〈議題概要〉のまとめ

議題チーム名	メインテーマ
まちづくりは 人づくりから	こんにちは赤ちゃん
京都にこわく	子どももおとなもいきいき育つ
人をつなぐ福祉の コミュニティづくり	人をつなぐ福祉のコミュニティづくり
岡崎ホールディングス	人々の心を豊かにする地区・岡崎
歩きやすい道	京都の道が歩きやすくなる方法を考える
のりもの	京都の交通問題
城と堀川	世界文化遺産・二条城（京都市所有）、神泉苑と その周辺の新しい観光を考え、町興しに繋げる
市民のおもてなし力を 向上させる	おもてなし力向上の施策の検討
D V S	伝統産業からのベンチャー企業の振興
市民の景観	京都のまちが京都らしく、美しくあるための人と 人を繋ぐ、人と行政を繋ぐルール
山紫水明の京都	山紫水明の京都を、京都内外の様々な交流を通し て、守り育てていけるポジティブな仕組みをつくり、 発信する
きわみ -京都・若者・未来の構想-	大学生と京都力
京都の無駄を斬る六人の侍	「市民参加と行政改革を考え提案する」学区自治 のあり方を再構築 OR 別の組織作りから「市民力」 を付けると見直しが出来るのでは?? これらのこと考え・実行するにも「行財政改革」 による財源の裏付けが必要

議題チーム・概要

議題チーム No. 【 1 】

チーム名		まちづくりは人づくりから		チーム人数：10人
チームメンバー		チーム参加動機	こうしていきたい/ こんなことができる etc.	あなたを表す要素/所属/職業 /キャッチフレーズ etc.
1	鷲見祐暁	人育てがメインテーマ。	子育て前の教育が大切。 「子育て支援」だけでなく、自分でできる人材を育成していきたい。	人材育成 メンター
2	白井敬子	発案人。	子育て前の教育が大切。「子育て支援」だけでなく、自分でできる人材を育成していきたい。	白井乳児園 保護者メインの人材育成 NPO
3	村木博隆	大人と子供のやりとりが	イベント幹事。	社会福祉協議会 認知症のサポート
4	森山祐輔		0才～お年寄りまでの「教育」。人々が豊かで幸福であってほしい。	公文の幼児教育開発（0才からの） モンラストリー教育 経営品質向上
5	尾崎愛子	子供たちが不器用になっている。原因は核家族？	「子育て」→子供を見守るだけ→「核家族」の子育てをサポートしたい。	40年和裁
6	梶 宏		道徳教育が大切。 ここでの課題は実現させる！	元市役所勤め
7	長尾博久	発案人		幼稚園 PTA
8	野崎治子			
9	江森正和			
10	高桑鉄則			

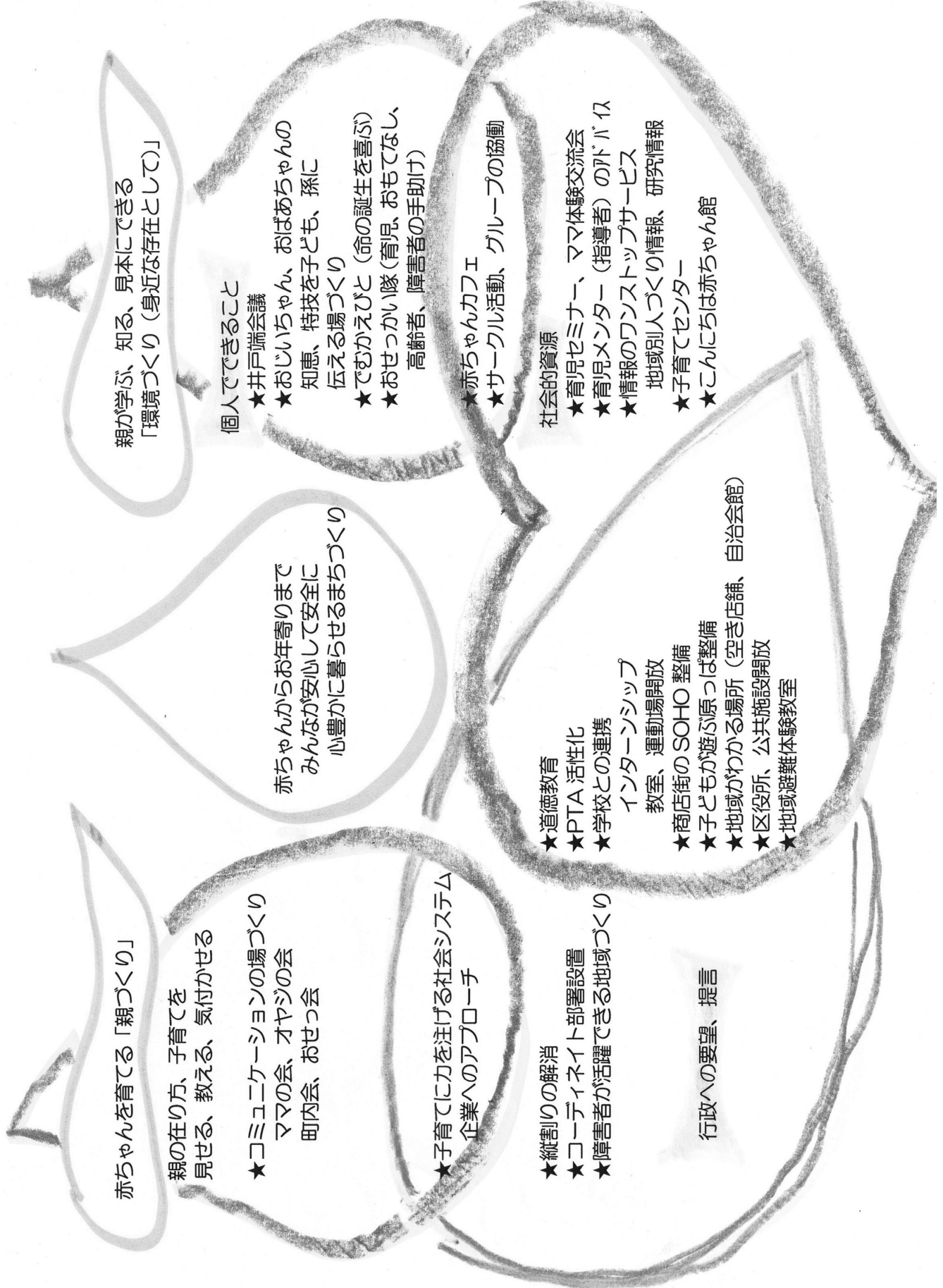
メインテーマ	<p>こんにちは赤ちゃん (育てあい育ちあいこんにちは赤ちゃん事業)</p>		リーダー： 白井敬子
サブテーマ			サブリーダー： 村木博隆
事務局との連絡役：	村木博隆		
チームの連絡体制 ルールなど	チーム内 ML を使用。		
その他			

議題概要

議題チーム No.【1】：まちづくりは人づくりから

<p>1)背景や問題の把握 現状に潜む 様々な問題の発掘</p>	<p>昨今多発する犯罪やモラル崩壊は、多くが心の未発達に起因していると思われる。心の育ち切らなかった子どもが、そのまま大人になった結果とも言える。幼少の頃より「社会の役に立つ」「他人を思いやる」といった人格教育のシステムが不十分でなかったか。</p>
<p>目的/動機/ 何の為に？</p>	<p>子ども達の発達や学びの連続性が重要であり、生涯にわたる人間形成の基盤となる「次世代を育む環境づくり」を推進・促進する。 ゆりかごの頃から健全な心を育てていく体制をつくる。</p>
<p>2)最終目標 将来像理想像 究極の目標・理想像</p>	<p>赤ちゃんから、お年寄りまで、みんなが安心して安全に、心豊かに暮らせるまち「京都」</p>
<p>9月時点の ゴール像・到達点</p>	<p>最終目標を実現するための具体的な活動項目を示す。 活動主体（個人、地域、民間、行政など）を明らかにする。</p>
<p>3)解決すべき課題 <易しい課題></p>	
<p><難しい課題></p>	<p>子育てに対する親の責任を自覚してもらうこと。 市役所の縦割り意識を払拭し、コーディネート機能を持たせること。</p>
<p>4)解決策 課題を解決する為の 方策やアイデア</p>	<p>子育ての経験者、お年寄り、お隣さん、親、子ども、赤ちゃんと、すべての世代が、子育て、親の自覚、悩み、伝統、経験、特技など、様々なことについて、やり取りできる場を創り出す。</p>
<p>5)行動計画 4月～9月</p>	<p>3月までに出し合った活動項目をブラッシュアップし、行動毎の活動主体とアクションプランを決める。</p>
<p>その後</p>	<p>アクションプランに基づいて行動する。</p>

『まちづくりは人づくり』ワークシート追加資料



チーム名		京都にこわく		チーム人数：16人
チームメンバー	チーム参加動機	こうしていきたい/ こんなことができる etc.	あなたを表す要素/所属/職業/ キャッチフレーズ etc.	
1	青木純平	自分自身が京都で育ち、自分の子どもを育てたいと思ったからです！	「京都と言えば、子ども！」と言ってもらえるようなまちづくりに尽力していきたいです。	保険会社で営業マンやっています！「京都から日本を良くしたい！」
2	竹内香織	子ども自身を声、気持ちをもっと聴く→活かすには？	自分の団体の事例から子どもの「声」を紹介できるとりあえず笑顔かな・・・	結構へこたれやすいです。NPO 法人京都子供センター
3	爾英晃	京都が子育てしやすい街になるために一緒に考えたい。	自分のノウハウを生かして子どものためにと。	京のぼんさん 子供のために
4	吉田友彦	子供の多い地区と少ない地区の差に対する問題意識。	子どもの少ない地区をどうするのかを考えてみたい。	建築関連です。
5	小林由紀子	自分が子育て中だからです。2年生の息子の母です。	子育てしやすい街にしたいです。	ママさんブラスに所属しています。
6	岡本敏子	子どもの未来に誇れる街づくりを整えたい為。	地域の子どもたちと仲良くなれる場所、地域の子どもたちに顔を覚えてもらいたい。	郵便局に勤めています。口も体も健康です。
7	野口寛樹	次世代は子どもが担うものだから実現性がありそう	何か一つでも実現していけるようにしていきたい。	学生です。
8	佐々木真	子どもはまちづくりの核となりうる	子どもを中心に異世代交流。	まちづくりカフェ店主です。
9	篠原幸子	子育てやりながら、いろいろ思うところがあるから。	具体的な結果を残したい。	花屋、旅行会社、農業ソフトの営業、雑貨店、デザイン、文筆、料理などいろいろやっています。
10	廣江吉信	地域全体で子育てしたい	子どもから高齢者まで一緒に楽しもう。昔は当たり前だった。	
11	佐藤友一	おやじパワーはまだまだあるはず	自分が楽しみながら周りの人とやっていく。	個人事務所『まちの縁結び事務所』始めました。
12	牧野圭一	『子供が子供の時間を作る』に感動	このテーマに特化！	子どもの夕テ社会の復活
13	山形悦久	子どもがいきいき育つ「生息環境」をとりもどす。	具体的な活動の対象を提案したい。	子どもの「生息環境」の再生
14	勝見九重	『子どもが子どもの時間をつくる』このテーマに惹かれました。	「子どもの時間」「場」をつくりたい	働く母親業 12 年目
15	石盛真徳	おやじの子育てにもっと参加できるようにしたい。	食育に関する活動	2歳と6歳の子どもの父親
16	中村秀哉			

メインテーマ	子どももおとなもいきいき育つ		リーダー：佐藤友一
サブテーマ	▼（課題）情報発信・アピール ▼子どもがいきいき	▼地域で子育て ▼社会（行政・企業）	サブリーダー：青木純平、 廣江吉信、竹内香織
事務局との連絡役： 青木純平			
チームの連絡体制/ルールなど		チーム内 ML を使用。	
その他			

議題概要

議題チーム No.【2】京都にこわく

<p>1)背景や問題の把握 現状に潜む 様々な問題の発掘</p>	<p>京都の子どもを取り巻く環境の課題が多い。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域がバラバラ ・情報が行き渡っていない。 ・企業が非協力的 ・オヤジの子育て不参加。 ・子どもが主体的になれる場所がない。 </p>
<p>目的/動機/ 何の為に？</p>	
<p>2)最終目標 将来像理想像 究極の目標・理想像</p>	<p>このまちに住む家族がより「にこにこ」「わくわく」暮らし、成長していけるようにすること！ 子どもに対して地域のさまざまな世代が興味を持ち、「地域の子どもである」という意識を持つこと。特に、これまで子どもにかかわりの薄かった「オヤジ」が、より子どもに関わるようになる。また、子ども自身が主体性を発揮して、子ども同士のつながりをつくったり子ども自身で考えて時間を過ごす場面が増える。</p>
<p>9月時点の ゴール像・到達点</p>	
<p>3)解決すべき課題 <易しい課題></p>	
<p><難しい課題></p>	<ul style="list-style-type: none"> ○妊婦への思いやりが欠けている (個別の解決策は易しいかもしれないが、効果が表れるには時間も手間もかかる) ○子どもの生息環境を取り戻す
<p>4)解決策 課題を解決する為の方策やアイデア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○プレママバッジの普及を各方面で行う 対象としては行政・企業・オヤジ・じじばば・若者 PRの場面としては病院・保育所も ○子どもが主体となれる場所を確保する (左京区浄土寺の天皇陵)
<p>5)行動計画 4月～9月</p>	
<p>その後</p>	

議題チーム・概要

議題チーム No.【 3 】

チーム名		人をつなぐ福祉のコミュニティづくり		チーム人数：8人
チームメンバー		チーム参加動機	こうしていきたい/ こんなことができる etc.	あなたを表す要素/所属/職業/ キャッチフレーズ etc.
1	高瀬博幸			
2	西 博三	前回入った議題と共通しているグループであった。		お年寄り暮らしの相談所主宰
3	山地敏明	現在の環境に同じ		
4	深田雄志	病気になって幸せにいきつづけることができるコミュニティを実現したい！		総合患者支援団体コンサルタント 大学院生、下鴨
5	長澤哲也	福祉のコミュニティづくりから社会を良くしていきたい。		福祉、環境のソーシャルワーカー
6	大西佳子	自治会の見直しが全ての悩みにつながり、発展していく。		
7	中前紀子	京都をよくするためには、まず小さなコミュニティ作り。		
8	原 依子			

メインテーマ	人をつなぐ福祉のコミュニティづくり	リーダー：長澤哲也
サブテーマ		サブリーダー：西 博三

事務局との連絡役： 長澤哲也

チームの連絡体制 ルールなど	基本メールと FAX
-------------------	------------

その他	<p style="text-align: center;">【チームコンセプト】</p> <p style="text-align: center;">私たちが考える『人をつなぐ福祉のコミュニティ』とは、福祉を特定の人のものであるのではなくその地域で暮らすみんなのものであると考え、暮らす人々が、それぞれの人生を実現していくために、いのちが守り育てられ、生活と心の豊かさが得られる、人のつながりが豊かなコミュニティです。</p> <p style="text-align: center;">そのコミュニティは、町内や自治会、学区といった地域でのつながりや、共通のテーマや目標を持った人たちのつながりによるものなど、人の集まりを楽しみながら活動し、共に生活を豊かにしていくものです。</p>
-----	---

議題概要

議題チーム No. 【3】：人をつなぐ福祉のコミュニティづくり

<p>1)背景や問題の把握 現状に潜む 様々な問題の発掘</p> <p>【背景／現状認識、 現状の問題点】</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の住民相互のつながりが希薄になり、地域で生活課題を抱えている人が孤立したり排除されたりしていないか。 2. 自治会や町内会への参加が減少し、地域住民自治能力が低下していないか。 3. 行政による支援制度につながるできない人、制度の狭間にあって困っている人が地域に埋もれていないか。 4. NPO やボランティア組織と自治会・町内会の交流がもっと進めば地域が活性化するのはではないか。 5. 地域の課題が埋もれてしまっていないか。 6. 住民の地域への愛着が低下し、環境が悪くなっていないか。 7. シニア・シルバー世代が地域に戻ってくる時代にマッチしたコミュニティ形成が必要ではないか。
<p>目的／動機／ 何の為に？</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広い意味での福祉が実現した京都にしていくために、コミュニティを再生する。 2. そのコミュニティ再生は人のつながりから始まる。
<p>2)最終目標</p> <p>9月時点の ゴール像・到達点</p>	<p>福祉の実現した京都</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学区や町内会単位でできる具体的なコミュニティづくり活動の提案（複数） 2. コミュニティづくりを京都市が支援する事業の提案（複数） 3. 100人委員メンバーの役割提案 4. 10月以降の活動目標づくり
<p>3)解決すべき課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人をつなぐしくみ、人がつながるための方策を考える 2. 具体的な活動としてのアイデア出し、事例の調査 3. 活動を支援する行政のしくみ制度のアイデア出し、事例の調査 4. 目指すコミュニティの機能や役割の整理
<p>4)解決策 課題を解決する為の 方策やアイデア</p>	<p><人をつなぐしくみ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 居場所、井戸端空間の創出 ・ 誰でも（年齢を問わず）相談できる場所→駆け込み相談室 ・ 地域の子供達や高齢者、現在の生活者と話し合う場 ・ 町内オープンミーティング（地域の課題をみんなで見つける） ・ 自治会、町内会と NPO・ボランティアとの協働 ・ 趣味や生きがい学習、まちづくり活動など多様なサークル活動の育成 ・ 地域学習と語り部養成を目指した熟年・高齢者カレッジの創設 ・ 孤立している人との交流（交流ボランティア） <p><福祉のコミュニティの機能や役割></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域之力、参加と支え合い、地域に学ぶ ・ 安心、安全なまちづくり（警察力だけが防犯ではない） ・ 高齢者が生活の母体として暮らす場所 ・ シニア、高齢者が活躍でき、生きがをもてる場所 ・ 行政だけでできないことをする、行政への提案、要求もできる ・ 暮らし、働き、学び、憩うことができる ・ 同じ目的を共有できる、認め合える、表現し合える ・ つながっていてはばられない ・ 競争社会、市場原理社会だけではない地域社会
<p>5)行動計画</p> <p>4月～9月</p> <p>その後</p>	

議題チーム・概要

議題チーム No. 【 4 】

チーム名		岡崎ホールディングス		メンバー人数：10人
チームメンバー	チーム参加動機	こうしていきたい/ こんなことができる etc.	あなたを表す要素/所属/職業/ キャッチフレーズ etc.	
1	丹羽 妙	京都の芸術の発展をさせたい。	京都の美術を創造できる町にしたい。	大学生。
2	美濃部竜治	ギャラリーの人の話を聞いて、京都の美術のポテンシャルを感じた。	美術のポテンシャルを上げる岡崎地区の構造を上げる	まちづくり研究学会の理事。
3	乾 明紀	芸大生が食べれてない状態を変えたい。 今の動物園の見せ方は変だと思う。	京都を新しいもの（美術）を作る都市にしたい。意義があって面白くてお金になる文化施設にしたい。	大学教員。
4	土岐利加	教育において動物に触れる大切さを伝えたい。	心の教育のために動物園で課外授業をしたい。	日本動物愛護ネットワーク会長。
5	井上翔一	芸大生が食べていけない状況を変えたい。 岡崎地区が寂しい。	しっかりと岡崎地区を変える仕組みを考える。	高校のデザイン科の教員
6	栗山文孝	日本家具が市民に認知されていない。	住環境を含めてアートを買う受け皿をつくる	家具の販売・製造を行う経営者
7	矢田佳子	京都の芸術としてのブランド力はあるのでそれを発展させたい。	京都の芸術としてのブランド力はあるのでそれを発展させたい。	アクセサリパーツを作るお店の経営者。 一方で陶芸の若手育成支援を行う。
8	山田寛仁	動物園に居る動物が見た目にかわいそうと感じている。	京都市動物園の檻の狭さを何とかしたい。	岡崎に住んでいて、以前他の美術館立ち上げに関わった。
9	八十山和代	テーマが明確で実効性があると思ったため。自身が芸術家のため美術館のテーマに興味を持った	市民に優しい美術館にしたい	竹がテーマの芸術家
10	土肥真司	岡崎に住んでいるため興味を持った	岡崎地区をもっとにぎやかな地区にしたい。	お寺の住職。お寺をイベントなどに開放し地域に根ざした活動を行う。

メインテーマ	人々の心を豊かにする地区岡崎	リーダー： 丹羽 妙
サブテーマ	動物園	サブリーダー： 土岐利加
サブテーマ	美術館	サブリーダー： 八十山和代

事務局との連絡役： 丹羽 妙

チームの連絡体制 ルールなど	週に一回議論に参加しましょう ML
-------------------	----------------------

その他	
-----	--

議題概要

議題チーム No. 【 4 】

<p>1)背景や問題の把握 現状に潜む 様々な問題の発掘</p>	<p>岡崎地区は京都市の文化ゾーンとして様々な文化施設が存在する。それらは明治期の先人が京都のために先駆的な取り組みを行ってきた結果であり、全国的にも注目される施設が多い。しかし、現在は各施設の連携不足や個々の集客力などの要因で、地区として人寂しい状態にあり、京都の文化の発信が十分になされていない。</p>	
<p>目的/動機/ 何の為に？</p>	<p>大目的：岡崎地区を魅力的な場所にする事で市民、全国から人が集まるような場所に変えること。「人々の心を豊かにする地区」として岡崎地区が京都の魅力を伝え発展させる地区になること。 ※今回はその先駆けとして、京都市動物園と京都市美術館にテーマを絞って検討。 施設毎の目的 動物園：京都に自然や命の大切にする心が広がること 美術館：京都の芸術が発展すること</p>	
	■美術館■	■動物園■
<p>2)最終目標 将来像理想像 究極の目標・理想像</p>	<p>京都市美術館が「市民に優しい美術館」になること ・今まで美術館に縁遠かった市民も京都市美術館に訪れるようになる ・芸術家を目指す人が発表・評価を受ける場所として利用すること。</p>	<p>動物園が市民に長く愛される「憩いの場・教育の場」になること。 ・子供達が命の大切さを知り、環境教育・情操教育の場になる場所。 ・街中にある動物園として市民の憩いの場所になる</p>
<p>9月時点の ゴール像・到達点</p>	<p>美術館の職員と共に目標を実現するための、新たな企画を計画する。来年度以降のスケジュールに組み込み、その企画実行に向け、準備が順調に整っている。</p>	<p>・今年度10月に策定される「新京都市動物園構想」に向け、実行可能なプランを提案すること。 ・超長期的な動物園の理想も語る</p>
<p>3)解決すべき課題 <易しい課題></p>	<p>・美術館に関わる多くの利害関係者との協議をする必要がある。 ・美術館の職員さんや市の担当課の人との継続的・深い連携体制整える。</p>	<p>・「新京都市動物園構想」素案についてよく理解し、HDとしての考えを纏めること。 ・動物園の職員さんや市の担当課人との継続的・深い連携体制整える。</p>
<p><難しい課題></p>	<p>・計画した企画を実際に実行する時は来年度以降であり、岡崎HDのメンバーがどのように関わられるのかが不明である。 ・美術館は人員・予算的に厳しい中で、計画を実行する条件が整えること。</p>	<p>・岡崎HDが描く構想に出てくるプランのうち、何が実現可能で、何が不可能なのかの判別がつきにくい。 ・当初の計画以上に費用が大きく掛かるものについての費用工面。</p>
<p>4)解決策 課題を解決する為の 方策やアイデア</p>	<p>企画面：事務棟をカフェにする/卒業制作展と大々的にプロデュースする/大学生のボランティアを利用した鑑賞教育/伝統産業の展示 ETC。 運営面：大学など研究機関と共同して省庁から予算を取ってくる/そのための団体を作る/月一回程度美術館側とディスカッションをする。</p>	<p>プラン面：美術館との垣根をはずし一体化する/植林により森の中のイメージを出す/立体展示/企業広告の利用/ETC。 運営面：「動物園大好き市民会議」や「専門委員会」の人と意見交換をする/こまめに動物園の人と連絡を取る。</p>
<p>5)行動計画 4月~9月</p>	<p>月一回程度美術館側とディスカッションを加えながら、最終的に実行可能なものを探っていく。</p>	<p>4月5月は、新動物園構想の素案に対し、岡崎HDとしての意見を深め、6月以降、本格的に動物園とディスカッションを重ねながら、プランを固めていく。</p>
<p>その後</p>	<p>どちらも長期的な活動が必要だと考えられるので、9月以降も活動が継続する方法を検討する必要がある。</p>	

議題チーム・概要

議題チーム No. 【 5 】

チーム名		きわみ -京都・若者・未来の構想-		メンバー人数：14人
チームメンバー		チーム参加動機	こうしていきたい/ こんなことができる etc.	あなたを表す要素/所属/職 業/キャッチフレーズ etc.
1	廣岡 睦			
2	元井雄大	議長の思いに共感 学生が地に足のついた成長を。		
3	小田切康彦	自分の経験から問題が近い。	大学＝中間支援＝地域	大学生 50% 事務員 50%
4	堀田芳子			
5	船戸潤子			
6	山本眞也			
7	新妻人平			
8	隅井孝雄			
9	筒井洋一	インターシップの経験から学生 と社会とのすりあわせが重要		
10	秋元宏美			
11	田中 翔			
12	立木哲生			
13	加藤謙介			
14	本多幸子			

メインテーマ	大学生と京都力	リーダー： 廣岡 睦
サブテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ▼移行（育成）プロセス ▼学生・企業・地域との接点 ▼夢をカタチに 	サブリーダー：新妻人平
事務局との連絡役： 新妻人平 希望など：		
チームの連絡体制 ルールなど	チーム内 ML を使用。	
その他		

議題概要

議題チーム No.【5】:きわみ

<p>1)背景や問題の把握 現状に潜む 様々な問題の発掘</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会と学生との接点がない／少ない／上手く動いていない。 ・就活直前まで、「自分に必要なもの」「やりたいことは何か」ということを考える機会が乏しい／ない。
<p>目的／動機／ 何の為に？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動前に「やりたいことがない」「大学の間に来てきたことがない」という学生を減らしたい。
<p>2)最終目標 将来像理想像 究極の目標・理想像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やりがいを見つけた学生が京都の街にあふれている。 ・就職活動前に既にやりたいこと／目標とする仕事が見つまっている。 ・またこのような学生の変化／活躍により、京都全体が活気に溢れる。
<p>9月時点の ゴール像・到達点</p>	
<p>3)解決すべき課題 <易しい課題></p>	
<p><難しい課題></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会と学生との接点がない／少ない／上手く動いていないという現状。 ・また、学生間ネットワークを再構築する。 <p>→他大学（他学校）／留学生／他地域など</p>
<p>4)解決策 課題を解決する為の 方策やアイデア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の抱える問題点を整理する。 ・メンバーの持つツールを把握する。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>現在、以下2案の行動計画を検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速効性のある案：「インターン制度の新形態も含めた改革」 ・継続的／総合的に課題解決を目指す案：「若者について話し合う場」
<p>5)行動計画 4月～9月</p>	
<p>その後</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の生活や活動を活発化することによって、京都の地域・社会を元気にすることを目的に活動している学生団体「京都学生会議所」の活動を歓迎するとともに、活動連携の可能性も視野に入れる。

議題チーム・概要

議題チーム No.【 6 】

チーム名		城と堀川		メンバー人数：13人
チームメンバー	チーム参加動機	こうしていきたい/ こんなことができる etc.	あなたを表す要素/所属/職業/ キャッチフレーズ etc.	
1	若村 亮		歩く観光を作って生きたい	「京都」の魅力を発信している‘らく旅’
2	全 永奈	この委員会で実行できることをしたい。	京都の活性化。	旅行会社勤務。
3	蜂谷 尚		見るだけの観光ではなく歩く観光+地下鉄活性化。	広告企画制作。
4	川口東嶺		堀川周辺活性化	浄土宗のお寺 堀川に水を流す運動を約10年従事。
5	芳村誠二		街中にある二条城を世界遺産。京都の原点としてアピールしたい。	先祖代々300年来堀川に住んでいる。
6	野村正樹		古いものに新しいものを入れて再生することが得意。	設計家 西陣の町屋づくりの専門
7	荒木本恵		御池通りの西東の交流化自転車を観光に取り入れる	
8	小泉光太郎			
9	松江 仁			
10	駒井義弘			
11	矢野睦子			
12	坂本美江子			
13	松村賢治			

メインテーマ	世界文化遺産・二条城（京都市所有）、神泉苑とその周辺の新しい観光を考え、町興しに繋げる	リーダー： 若村 亮
サブテーマ		サブリーダー： 駒井義弘
事務局との連絡役： 若村 亮		
チームの連絡体制 ルールなど		
その他		

議題概要

議題チーム No.【6】：城と堀川

<p>1)背景や問題の把握 現状に潜む 様々な問題の発掘</p>	<p>二条城は参観にきた人のことを考えてもっと運営の仕方を考えるべき。 (周辺地域との交流、市民への広報、役所的な考え方。)</p>
<p>目的/動機/ 何の為に？</p>	<p>京都市民のものである二条城と堀川を中心に再生・整備を進め、二条城界隈を、「町中の、そして堀川周辺を歩いて巡る観光」など点から面へと魅力的な観光地とし、観光客の更なる誘致と地元のまちおこしを目指す。</p>
<p>2)最終目標 将来像理想像</p> <p>究極の目標・理想像</p>	
<p>9月時点の ゴール像・到達点</p>	
<p>3)解決すべき課題</p> <p><易しい課題></p>	<p>提言したいこと、課題を列記する(国・府・市別に)</p>
<p><難しい課題></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二条城南門前の市有地の活用 ・市バス、地下鉄の活性化 ・二条城職員の意識改革(おもてなしの気持ち具現化) ・二条城が市民に支援されるためにどうするか。 ・二条城前駐車場は景観的におかしい。
<p>4)解決策 課題を解決する為の 方策やアイデア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の「市」の開催(学生・子ども達の発表の場としても) ・二条城職員のユニフォームを変える(江戸衣装?) ・城内の土産販売充実、無料休憩所改善 ・城マスコットを作る。他自治体のまちおこし例を勉強する。 (姫路、近江八幡、彦根) ・二条城中心のマップを作って割引券などをつける。 ・城の南側に橋をかけて、南側を活性化。 ・駐車場をなしにして、町屋作りのような一角を作る。 ・城の垣根問題。
<p>5)行動計画</p> <p>4月~9月</p>	
<p>その後</p>	

議題チーム・概要

議題チーム No. 【 7 】

チーム名		市民のおもてなし力を向上させる		メンバー人数：8人
チームメンバー	チーム参加動機	こうしていきたい/ こんなことができる etc.	あなたを表す要素/所属/職業/キャ ッチフレーズ etc.	
1	吉見誠一郎	市民のおもてなし力を向上させることで、旅行者を温かくもてなしたい。	京都の文化や歴史的遺産に関する有益な情報を市民目線で旅行者に届ける。	京都産業大学上席特別研究員 サイト公開「京都歩く不思議事典」 www.eonet.ne.jp/~kyoto-fushigi
2	藤林茂二	一度行ってみたら何度でも行ってみたい京都にしたい。	シーズン毎に京都の魅力を紹介出来るマニュアル作り。	英語を使っの京都の PR が出来る人。
3	太田航平	観光と参加型のまちづくりをどのように捉えたらいいのか。	おもてなし力向上に向けたコミュニティづくり。	「環境×メディアアート」をテーマに活動する人。
4	上田雅弘	ハードからソフトへ。最後は人。	実効性のあるプランの作成。	少しは京都へ恩返し。
5	平井誠一	ユニバーサルな観点から住みよいまちづくり	心のバリアフリー運動の展開	元京都 JC 理事長
6	八尾 満	''		
7	古田泰久			
8	岡村充泰			

メインテーマ	おもてなし力向上の施策の検討		リーダー： 吉見誠一郎
サブテーマ	観光客へのおもてなし → 京都市民一人一人が観光客への親切な心配りが大切。 京都人はあまり話しをしない。 トイレと観光の問題も大切 他の都市のベンチマークも必要 市民性京都人の人格の検討 意識改革が必要 具体的な「目的」を明確にして継続、達成		サブリーダー：
事務局との連絡役： 吉見誠一郎			
チームの連絡体制 ルールなど	ML のより、リーダーより発信、但し藤村氏は FAX にて連絡。 観光客からのアンケート調査を実施している機関から、アンケート調査結果を入手して頂き、チームメンバーに提出して頂きたい。		
その他	【発表会 A グループでの質疑応答】 コミュニティ・カフェ巡りなどいかが？ = 街の縁側ツアーなどもユニークなふれあいになる ベビーカーや子ども連れでも安心して乗り物に乗り降りできるような思いやりやサポーターが必要 = 市民が参加するには市民の意識が高くないとダメ・どうやって意識を高める 伝統的のものづくり職人との協働（ものづくりに参加） マナーの悪い観光客をどうするか？		

議題概要

議題チーム No.【7】：市民のおもてなし力を向上させる

<p>1)背景や問題の把握 現状に潜む 様々な問題の発掘</p>	<p>(旅行者) ・現状分析が出来ていない →旅行者の真のニーズが把握されていない (特にホスピタリティーに関する満足度が詳細に分析できていない)</p> <p>(市民) ・ホスピタリティーに関する市民合意ができていない</p>
<p>目的/動機/ 何の為に？</p>	<p>・京都は千二百年を超える歴史と文化が集積した都市、また我が国の宗教文化の中心都市、山紫水明に恵まれた自然景観都市 → 日本人の『心のふるさと』 市民はこれらの優れた資産(国の光)を継承すると共に、多くの人々(観光客)との多面的な交流を通じて、相互理解を深め、優れた資産を更に磨き上げることを通じて、快適で魅力ある京都/活力ある京都を実現</p>
<p>2)最終目標 将来像理想像 究極の目標・理想像</p>	<p>・市民や旅行者の意識調査(アンケート形式)を実施。「おもてなし」に関する現状認識と問題点を整理。市民、事業者、行政それぞれのセクターで何ができるのか検討し、その結果を提言に結びつける。 ・提言後もその提言が実行されるよう、引き続き活動を進める。</p>
<p>9月時点の ゴール像・到達点</p>	<p>・9月時点で上記の提言をまとめる。</p>
<p>3)解決すべき課題 ＜易しい課題＞</p>	<p>(市民意識調査) ・とりあえずアンケート案を作り100人委員会の委員に協力を求めて4月中にテスト調査を実施する。 (旅行者意識調査) ・アンケート案の作成</p>
<p>＜難しい課題＞</p>	<p>(市民意識調査) ・実施方法が難しい(市民意識の代表性の確保)。 (市民意識調査、旅行者意識調査共通) ・アンケートの実施に関する費用(印刷費、返送費など)をどうするか? ・アンケートの実施に必要なマンパワーをどうするか?</p>
<p>4)解決策 課題を解決する為の方策やアイデア</p>	<p>・アンケートの設計や分析手法について専門家の意見を聴取</p>
<p>5)行動計画 4月～9月</p>	<p>4月：・市民意識のテスト調査を実施(対象:100人委員会各委員、事務局員) ・旅行者意識調査アンケート票作成・決定 5月：・市民意識テスト調査の結果のまとめ ・旅行者意識調査の実施方法等の決定 6月：・旅行者意識調査の実施(実施期間は1カ月程度、回収の用途は最低1000人以上) ・市民意識調査の実施方法等の決定 7月：・旅行者意識調査票の回収と分析・整理 ・市民意識調査の実施(実施期間は1カ月程度、回収の用途は最低1000人以上) 8月：・旅行者意識調査票の回収と分析・整理→提言案の作成 ・市民意識調査票の回収 9月：・市民意識調査票の回収と分析・整理→提言案の作成</p>
<p>その後</p>	<p>・提言の推進及び実行機関としてNPOを設立するのも一方法(吉見の個人的意見)</p>

チーム名		市民の景観 (誰の為に景観+市民が望む京都の景観)		メンバー人数：13人
チームメンバー		チーム参加動機	こうしていきたい/ こんなことができる etc.	あなたを表す要素/所属/職業/ キャッチフレーズ etc.
1	河辺清美	新景観法って、誰のためにある。市民？観光客？	市民のための景観法か？	サマリーマン NEONEO
2	高木英二	京都の仕事を京都でやる為に。	景観法が京都の仕事を生むか？	地消券が大切。
3	田中俊介	景観法の見直し。	地域にあった市民の為に景観法	建築業界の言いたい事多い。
4	松本よし子	景観法をもっと市民にオープン（情報公開）等 京都の活性化に果たして結びつくのか（経済効果は？）	各種業界（専門性の）の人々による話し合いによる経済 地域の活性化を考える会	編集・出版/京都の情報を全国に発信
5	土井春義			
6	石倉宏	景観条例施行後の市民の声が聞きたい。	市民に納得してもらえる条例にしましょう	景観は大事
7	内藤郁子	京都らしさ、京都の生活文化を受け継ぎ、景観を考えたい。	市民の共通意識、誇りを組み上げたい。	京都府建築士会 京町家居住支援者会議
8	大西健吾	市民として、業界人として携わりたい	住民の意見を反映できる条例に。	建築士会 建築業協会
9	高野忠男	20年前の仏教会と京都府の問題が今やっと理解できました（景観）	景観を考え、京都を守りたい。	竹工芸家、里山を守る。
10	宗田好史	内藤さんに魅かれて。	反対派と議論したい。	京町家再生研
11	森本浩行	まちづくりといえば景観、交通、防災	市民が、住んでいる人が良いと思える景観	京の三条まちづくり協議会 ぼちぼちと
12	中村伸之	景観問題になぜか引き込まれて…	自分たちでできる景観づくりを考えたい	ランドスケープアーキテクト、技術士
13	衛藤照夫			

メインテーマ	京都のまちが京都らしく 美しくあるための人と人を繋ぐ 人と行政を繋ぐルール	リーダー： 内藤郁子
サブテーマ	景観政策を一般市民に、何のための景観か？ 地域にあったルールづくり	サブリーダー：
事務局との連絡役： 内藤郁子		
チームの連絡体制 ルールなど		
その他		

議題概要

議題チーム No. 【8】【9】：市民の景観

<p>1)背景や問題の把握 現状に潜む 様々な問題の発掘</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政策が解らない ・誰のための景観政策か解らない ・市民の生活を優先すべき *なぜ（理念）・・・ソフト *どんな（姿・形）・・・ハード <ul style="list-style-type: none"> ・将来像が見えない ・市民の暮らし・感覚とずれている ・総論賛成各論反対
<p>目的/動機/ 何の為に？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や地域で景観についての理念や将来像を共有する ・京都の歴史や文化を継承する
<p>2)最終目標 将来像理想像 究極の目標・理想像</p>	<p>市民が納得して地域の景観を形成していく 成熟したコミュニティで、議論や判断をするシステムが存在する</p>
<p>9月時点の ゴール像・到達点</p>	<p>「私もできる景観を整える方法10箇条」 「写真集～こんなまちにしませんか？」 100人委員会が選んだまちの景色」</p>
<p>3)解決すべき課題 <易しい課題></p>	<ul style="list-style-type: none"> *どんな（姿・形）・・・ハード ・具体的な形にビジュアル化する ・総論賛成（各論反対） 総論はどんな姿か
<p><難しい課題></p>	<ul style="list-style-type: none"> *なぜ（理念）・・・ソフト ・何のために？ ・市民の生活の何が良くなるのか？ ・総論賛成（各論反対） 各論はどう解決するか
<p>4)解決策 課題を解決する為の 方策やアイデア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市が「景観ガイドライン」作成中 景観適合建築物を掲載 ・「私もできる景観を整える方法10箇条」 ・100人委員会で私の好きな京都のまち・写真募集 まちの景色 住みたい家 ・先進取り組み事例の紹介 ・コミュニティの形成の手助け ・観光・歴史都市・文化についての考察
<p>5)行動計画 4月～9月</p>	
<p>その後</p>	

本頁内容は、第6回会議時点のものであり、第7回会議後のまとめは別紙参照。

I. 何のためにするのかを明確に

委員会の目標設定があいまいである
市民に解りやすいテーマを述べるべき
納得出来る柱がない、目指しているイメージが解らない

誰のためなんか？
市民のためになるのか？
何が良くなるのか？
自分の幸せのため？ホント？

II. 景観条例を地域のコミュニティづくり（活性化）につなげる手法

景観はまちづくりの第一歩で、
景観問題から地域の人が待ちに感心をもち、
人を繋げ、ひいては地域の活性化に繋げる

コミュニティで
事前に話し合う
未来を描く
まちなみ全体から考える

学区
(まちづくり委員会
・協議会)
沿道・地区

III. 美しい景観の認識

何が美しい景観なのか？
このまちに住んで良かった
・自分が幸せを感じる景観
・みんなが守りたいと育てたい景観
・他の人が来ても幸せを感じるまち

京都ブランド＝キーワード
三山・社寺・歴史
観光・暮らし・歴史都市
癒し・和

IV. 窓口業務（申請）にかかわる問題

対応のまずさ

手続きの簡素化（複雑すぎて誰も全部を解っていない）
相談出来るところが欲しい
サポート体制（代書屋・中間的な立場。素人にはとても難しい）

個別で
(工事の毎に)
施主・工務店・建築家が

【提案1】地域の景観相談所（NPOなど）の設置支援

サポーター・コーディネーターを派遣
その場所の規制内容
使える材料
申請書類の作成手助け

【提案2】景観まちづくり支援制度の設置提案

軽微な改修改善を支援して替えるの時だけでなく、少し手を入れるだけで良くなる
(例えば、ペンキや吹き付けの色を変える・植栽など)
その際の助成も含め、小さな事から感心を深めていく

一事例

葺の屋根の葺き替え工事

- ・瓦をソーラーパネルに(20㎡ほど)
- ・補助金を利用したい(申請が必要)
- ・旧市街地型美観地区

メーカー・商家・屋根業者と打ち合わせ OK

市役所・市街地景観課に相談

- ・屋根材は瓦か金属板(スレートはダメ)
- ・屋根一体型(設置型のソーラーはダメ)
- ・メーカーによって使用できないものもある(色)
- ・担当者が工作物だと間違った

施主＝黙ってすれば良かった

- ・全体を理解するのが大変
- ・理解している人がいない
- ・手間も時間もお金もかかる

規制の方法

- ・細かく全て規定する
- ・権威のある人に任せる(マスターアーキテクト)
- ・市民が決める(学区・町内)

目に見えるシミュレーション

ビフォーアフター

どっちがきれいか、誰にでも解りやすい

以前に出ていた提案

100人委員が選ぶ京都の景観

アンケート・写真

京都の景観を整える10の方法

中間発表に向けて～提案内容

提案A 景観に関わる申請業務をサポートする相談機関の設置

IV

■現状の問題点

1. 政策の内容が複雑すぎて理解するのが難儀である。
2. 関わる様々な業者まで情報が伝わっていない。
3. 市外の業者の理解が薄い。
4. 手続きが難しい。

■提案内容

- イ. 多様な場面で、説明をする機会を増やそう。
 - ・様々な業種ごと、(例えば、左官業者、屋根工事業者、塗装業者、中小工務店など)
 - ・それらは、各業種(職能)団体が、積極的に取り組んで欲しい。
 - ・一般市民(施主)向け、市外で、などの説明会も必要。
 - ・工法や材料、色彩についてなど、多種の情報が必要。
- ロ. 申請書類作成のための第三者機関による相談窓口を設ける。
代書サービスも行う。

提案B 地域の景観まちづくりのサポート体制の整備

■現状の問題点

景観はそもそも、市民が地域で作っていくものだが、地域での意識のレベルがまちまちで、なかなか地域で議論するところまでには至っていない。

B-1 地域の「景観まちづくり委員会」の立ち上げとサポート

I

II

III

■提案内容

- ・「景観」をまちづくりのきっかけとし、地域から積み上げる住民による「景観まちづくり」を実現化する。
- ・地域ごとに(学区単位)、「景観まちづくり委員会」を立ち上げる手助けをする。
- ・地域で、現行のデザイン基準を説明する。
- ・自分たちの地域の良いところを見出し、ふさわしい景観を考える。「(何のため)「どんなビジョン」を共有していく)
- ・学区から、通り、町内へと、きめ細かな身近な基準を定めていく。
- ・小さな補修(修景)から建替え、新築するときに、相談に応じ、さらに地域のオーダーメイドの基準から、「景観協定」を組むところまで推進する。
- ・都市まちづくり推進課や景観まちづくりセンターとも協働し、専門家も交えたサポート体制が必要。

B-2 まちの小さな修景への支援制度

I

II

III

■提案内容

新築や大改修ではなく、外装やシャッターを塗り替えたり、外構の床や塀、生け垣などの修景を行うことを推奨し、そのデザインの相談に応じる。また、工事費に対して助成金を出す。

このことから、景観を身近に考える事ができ、修景にまちぐるみで参加することができる。

B-3 マンションの改修補助制度

I II III

■現状の問題点

まちなかにはすでに沢山のマンションが建っており、なかなか地域となじめずにいることが多いが、今やマンション住民の数が増え、マンション抜きではまち全体を考える事ができない。また、マンション住民は、まちの暮らしや町家に感心を持つ人も多く、まちに受け容れられ、まちに寄与したいと考える人も少なくない。

■提案内容

マンションの建替えだけでなく、改修や外構工事などの際に、相談に応じ、助成する。

マンションの住民も、地域に気を使っているという姿勢を示すことが出来、また自らの資産価値を上げることに繋がる。

相談して決める過程で、地域との繋がりが生じ、住民との交流や行事（地蔵盆など）の協働の場が生まれる。

提案A・Bには、各業界団体が、説明会の開催や、専門相談員を派遣するなど、積極的にかかわって、実務的なサポートを行う。

提案C 「京都の景観を整える10の方法」

I II

■現状の問題点

■提案内容

100人委員会で、京都らしい景観のアンケートを取る。(写真・コメント)

そのなかから、望まれている景観、京都らしい景観を探り、こうすれば景観が整うという具体的な方法を示す。

改修や新築する際、また修景する際、さらにまちのルールを考える際、ビジョンやイメージを引き出すツール、モデルとして役立つ。

提案D 京町家の建替特例の制定

■現状の問題点と効果

京都の景観政策は、京町家をはじめとした歴史的な情緒あるまちなみを大切にしていこうというもので、

*建物の高さ、 *建物等のデザイン、 *眺望景観や借景、 *屋外広告物、に合わせて、 *歴史的なまちなみ、すなわち京町家などの歴史的建造物の保全・再生が5つの柱として謳われています。しかし、4つの項目には厳しい制限が設けられましたが、5つ目の柱には具体的な効力をもつ施策がないままです。

京町家に合うように、平入り屋根や庇、瓦屋根、色などが定められていますが、現在も京町家は壊されつづけており、このままでは、気がつけば主人公のいないまちなみになってしまいます。

京町家に住む人は、ある意味、耐震性や耐火性に不安を感じつつも、建て直すと、いまと同じスペースが確保できないために、諦めてそのまま住み続けている人が大半ではないでしょうか？

そこで、「京町家の建て替え特例」とは、京町家を建て直す際に、看板建築にしているものも含め、町家のファサードを再現するという条件を、今のボリューム以内で直すことを、特別に認めるという制度です。もちろん、耐火性や耐震性は現行法規に則ったものとします。このことで、まちと家の安心・

安全が確保されます。

また、木造とすること（伝統工法を推奨）で、「木の文化」を継承、発展させることにも寄与します。さらに、京都産材を使用することとすれば、京都の林業も潤いますし、地産地消でウッドマイレージ、低炭素社会にも一端を担うことが出来ます。

■ 提案内容

京町家（戦前の木造住宅・看板建築にしてしまったものを含む）を、建て直す際に、以下の条件を満たす場合に、現状（若しくは建築当初）のボリューム以内で建替えることができる事とする。（建蔽率・容積率・北側斜線・道路斜線・ケラバの出・ファサード側からの採光面積などの規定は免除される）

1. 戦前に建てられた木造住宅であること。（看板建築を含む）
2. ファサードを、建築当初もしくは、それに近い、京町家のタイプの意匠とすること。
3. 構造は、木造（在来工法・伝統工法）とし、ファサードには木を使用すること。
（防火規定は告示による）
4. 防火規定・構造規定等は、現行の建築基準法によること。
5. 構造材は、京都産材を使用すること。（もしくは、京都産材を〇〇立米以上使用すること）

※ □ は、第7回まとめの課題の番号で、それに対する対策・提案であることを示す。

市民の景観チーム：石倉宏 大西健吾 河辺清美 高木英二 高野忠男 田中俊介 内藤郁子
中村伸之 松本よし子 宗田好史 森本浩行 （衛藤照夫） （土井春義）

議題チーム・概要

議題チーム No. 【 10 】

チーム名		歩きやすい道		チーム人数：4人
チームメンバー		チーム参加動機	こうしていきたい/ こんなことができる etc.	あなたを表す要素/所属/職 業/キャッチフレーズ etc.
1	田村 剛			
2	リチャード シルバー	京都で歩くのが好きです。		他の人を歩いてみるのを励ま す。
3	中村善治	歩いて再発見		とにかく歩こう。
4	竹内裕貴			

メインテーマ	京都の道が歩きやすくなる方法を考える	リーダー： 田村 剛
サブテーマ	歩きにくい道をピックアップする	サブリーダー：
サブテーマ	歩きやすい道をピックアップする	
事務局との連絡役：	田村 剛	
チームの連絡体制 ルールなど	携帯電話、あるいはメール	
その他		

議題概要

議題チーム No. 【10】：歩きやすい道

<p>1)背景や問題の把握 現状に潜む 様々な問題の発掘</p>	<p>車の通行に不安を抱きながら歩くのは嫌だ。 車も気持ちよく、自転車も気持ちよく、そして歩行者が最も気持ちよく通行できることが、「歩いて楽しい街」に繋がるのではないか。見るところが沢山あっても、きれいなところが沢山あっても、歩くのに負担を感じたら何も楽しくない、楽しさは激減する。 それぞれの問題はあるが、歩行者に重点を置いて「歩きやすい」をキーワードにした。</p>
<p>目的/動機/ 何の為に？</p>	<p>歩行者が周りの見渡したり、立ち止まったりを自由にできれば、その地域のことをよりよく知ることができる。楽しく歩くことができる。歩いて出かけることに対するネガティブなイメージが減り、歩く人が増えるかもしれない。歩行者が歩きやすい道であれば、車や自転車との関係も良好になるかもしれない。車の使用が減少するかもしれない。健康の増進。地域の小売店舗の利用が増加するかもしれない。たくさんの可能性がある。</p>
<p>2)最終目標 将来像理想像 究極の目標・理想像</p>	<p>歩くことに対するストレスが少ない道に 何かにおびえて歩かなくてよい道に</p>
<p>9月時点の ゴール像・到達点</p>	<p>① 歩きにくい道の調査結果 ② 歩きやすい道の提示 ③ ①と②の比較→差異は何か→改善ができそうなところを探す ④ 改善対策地の選択</p>
<p>3)解決すべき課題 <易しい課題> <難しい課題></p>	<p>・「歩きにくい道」を挙げる調査担当区域を決める ・調べることを決める ・調査をする ・100人委員会の方々にもお願いする</p> <p>「歩きにくい道」を「歩きやすい道」にしていくには、できることは何か。 「歩きにくい道」と「歩きやすい道」の違いを見つけることができれば、何らかの解決策が見つかるのではないか。</p>
<p>4)解決策 課題を解決する為の 方策やアイデア</p>	<p>可能であれば対象地域の人巻き込んで、できることから少しずつ 要らないものを退けるなど、簡易なことで改善するところもあるかもしれない。</p>
<p>5)行動計画 4月～9月</p>	
<p>その後</p>	

議題チーム・概要

議題チーム No. 【 11 】

チーム名		のりもの		チーム人数：11人
チームメンバー		チーム参加動機	こうしていきたい/ こんなことができる etc.	あなたを表す要素/所属/職 業/キャッチフレーズ etc.
1	堀川 浩	地域に開かれた道路。 地下鉄運営。	自分の経験を生かして	市役所勤務（道路関係に いた）
2	田中準一	若い人の考えを吸収。 議長の人柄にひかれて。	これまでの考えを披露しま す！	
3	二塚敬子	様々な仕事をした中で、その知恵、 経験を発揮できるのではと思った。		
4	川本力	大学→駅へのアクセスの悪さを思 って。		大学生
5	須藤篤志	市内を回っている中で、もっとこう したら良いと思うことが多かった。	人の目につきにくいことに も着目したい。若いアイデ ィアを活かしたい。	旅行好き、史学を修める。 交通マニア（相当の）
6	富吉満之	色々な交通手段を利用した中で視 点の違いを強く感じ、その考えが活 かせるのではと思いました。		大学生博士課程（農業）
7	池口誠一	場の雰囲気（特に議長）がよかった。 過去の仕事の視点が活かせるので はと思った。	こうだということではない が、みんなで議論して考え たい。	交通関係の仕事をしてい た
8	岡野真之	自分の経験が活かせるのでは。	皆で考えて結果を出したい	
9	吉川忠男			
10	Nadine Edwards			
11	尾形浩一郎			

メインテーマ	京都の交通問題	リーダー： 吉川忠男
サブテーマ		サブリーダー： 川本力
事務局との連絡役： 吉川忠男		
チームの連絡体制 ルールなど		
その他		

議題概要

議題チーム No. 【11】：のりもの

<p>1)背景や問題の把握 現状に潜む 様々な問題の発掘</p>	<p>徒歩と自転車と公共交通機関で完結する交通ネットワークは理想。ただ京都の公共交通ネットワークはそれが可能なほど整備されていない。商業者にとっても車は不可欠。自転車はマナーや安全に走れる道・駐輪場の問題。地下鉄は作ったからには市民の財産。赤字の垂れ流しは市民の負債。市バスはなぜ利用されないのか？LRT は本当に実現可能なのか？京都の街をもっと安全、快適に移動できる街にするためには解決しないといけない課題がいっぱい。</p>
<p>目的/動機/ 何の為に？</p>	<p>(1) 安全で快適な交通環境をつくる (2) 更なる環境良化をはかる (3) 交通財政の健全化をはかる</p>
<p>2)最終目標 将来像理想像 究極の目標・理想像</p>	<p>中心部への自動車の流入規制。LRT (今出川通・四条通) の実現。地下鉄・市バスや私鉄・JR などの公共交通機関の有機的連携。積極的な自転車の活用とマナー向上の両立。</p>
<p>9月時点の ゴール像・到達点</p>	<p>実現に向けて検討可能な具体的な事業案を「アイデアレベル」で提案。コストの試算などの裏づけまでは不可能だが、絵に描いた餅にならぬように実現に向けての解決課題として何があるのかまでは踏み込んで考えたい。</p>
<p>3)解決すべき課題 ＜易しい課題＞</p>	<p>「自転車」「車の規制と LRT」「公共交通ネットワーク」の3つのテーマについて限られた時間内で、我々がどれだけ踏み込んだ提案ができるか。</p>
<p>＜難しい課題＞</p>	<p>行政の支援（本気で検討・協力してくれるか？）←我々のモチベーションにも影響 費用面の裏づけ（行政の補助金、民間企業の協力）</p>
<p>4)解決策 課題を解決する為の 方策やアイデア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この委員会への市の期待度、本気度を確認する ・我々ができるのは、あくまでアイデアレベルの提言との割り切り。 ・歩くまち協議会との連携
<p>5)行動計画 4月～9月</p>	<p>※3月で「自転車」問題へのアイデアをまとめる 4月 中間発表 5月 「自動車規制と LRT」 6月 「公共交通ネットワーク」 7月 未定 8月 未定</p>
<p>その後</p>	

チーム名		山紫水明の京都		チーム人数：7人
チームメンバー	チーム参加動機	こうしていきたい/ こんなことができる etc.	あなたを表す要素/所属/職業/ キャッチフレーズ etc.	
1	上原智子	規制だけでなく京都の自然を、まちとの関わりの中で守っていききたいと思った	みんなが京都の自然に感謝し、行動にうつし、京都の良さを守る活動を進めたい	(社)京都府建築士会まちづくり委員会+京都市職員(建築士)
2	高嶋加代子	水と緑の大切さを思います。「山紫水明の京都」という言葉に惹かれました。	山や川や地下水など、自然の大切さを楽しみながら学べる機会を作り、知恵が集まるしくみを作りたい。	京都ラジオカフェ株式会社・企画室長 NPO法人遊プロジェクト京都・理事長
3	上萩 寛	周囲の豊かな自然があつてこそ、京都は魅力的な街であり続けると思います。	まず、周囲の山や農地に関心をもっと持ってほしい	森林・林業分野を職業とするものとして、またプライベートでは森林インストラクターとして、森林にかかわって生涯生きていきたいと思っています。
4	堀 正勝	こわされつつある日本で一番優雅で美しい京都の周囲の山と賀茂の流れを守りたい	美しい京都の周囲の山と賀茂の流れを生かす都市の在り方を考え、都市計画にし、不便で住みにくいが、美しく住みたい京都の街を実現したい。	京都府鴨川会議の委員をしていて、京都の山と川の両方の美しさを守り、いかした街づくりの計画とその推進を効果的に出来る様にしたい。
5	中園涼子	京都を京都たらしめる風土は市民の豊かさを担保する生命線だと信ずる故	市民が市域の自然生態系と共生していくための日常生活レベルでの仕組みを提案したい	京都大学大学院 人間・環境学研究科 修士一回生
6	朝倉眞一	良い環境をただ守るだけでなく、実際の暮らしとしっかり結びつけていく方法を考えたいと思っています。	地域ごとに独特の生活の知恵や自然との付き合いがありますが、現代社会の豊かさと折り合いをつけた新しいライフスタイル、地域コミュニティの姿を提案したい。	京都市文化市民局まちづくりアドバイザー
7	井口 貢	「山紫水明」という言葉で表現される京都の自然環境を守ることは、ひとり自然環境のみならず、文化的環境や社会経済的環境、人的環境などをも守り継承していくことであると感じている。	人と人との関係性の豊かさを紡いでいくことが大切です。「人と人」というのは、京都市民間だけではなく、対来訪者、対京都府民、対他府県民など、多様に考えたいです。	同志社大学政策学部教授 担当は、「文化政策」および「観光政策」です。

メインテーマ	山紫水明の京都を 京都内外の様々な交流を通して 守り育てていける ポジティブな仕組みをつくり、発信する	リーダー： 上原智子
サブテーマ		サブリーダー： 中園涼子
事務局との連絡役： 上原智子		
チームの連絡体制/ルールなど	メーリングリストによる連絡	
その他		

議題概要

議題チーム No. 【12】：山紫水明の京都

<p>1)背景や問題の把握 現状に潜む 様々な問題の発掘</p>	<p>京都を表す枕詞といえば、「山紫水明のまち」。平安建都以来、美しい山々に囲まれ、美しい水に恵まれることによって、京都の歴史や文化が生まれ、引き継がれてきた。</p> <p>しかし、近年山とまちとの関わりが少なくなり、人の手が入らないことによって山が荒れてしまい、名水が姿を消していつている。文化や暮らしの源となる山々や名水は、開発を制限するだけでは守れない状況となっている。京都市での暮らしに京都らしい風情と豊かさを与えてくれる身近な自然、いわば京都の風土そのものが、ライフスタイルの変化等により放置／破壊されている現状に100人委員会として何かしたい。</p>
<p>目的／動機／ 何の為に？</p>	<p>「山紫水明の京都を守り育てる」ことをテーマに、京都市民が自然と共に暮らしてきた「山紫水明」としての京都を再認識し、感謝の気持ちを取り戻す。</p> <p>自然と一体になった田園風景が消えていくこと、山林が放置されて荒れている問題に対する危機感を持ち、現状のままでは今までの京都の良さはもたないという認識と共に、それを守るための持続可能な仕組みづくりを提案し、行動につなげていきたい。</p>
<p>2)最終目標 将来像理想像 究極の目標・理想像</p>	<p>人が自然を慈しむことで美しい水・緑・土に恵まれた豊かな暮らしが実現する。京都本来の自然と共にある暮らしの文化を未来の京都のために再び取り戻したい。</p>
<p>9月時点の ゴール像・到達点</p>	<p>道を開くために各分野で活躍されている方たちのサミットを行って、それを踏まえた上で何かアクションを起こすこと。</p>
<p>3)解決すべき課題 <易しい課題></p>	<p>人々の暮らしと山との関りを改善することが山の現状の改善につながる。間伐材や竹の利用など、市民に山を有効に消費してもらおうという、すでに課題解決の一方法として提示されていることを、自分たちの活動にどう絡めていけるか。また、すでに様々な団体が同じ議題に取り組んでいるが、その中でどう自分達を位置づけ、何を具体的に始めるのか。</p>
<p><難しい課題></p>	<p>問題の具体的な把握→ライフスタイル、都市の構造、政策の変化など、議題に関する諸事項の内容を洗い出し明確にし、現状の何が悪くて、何をどう変えたらどのくらいの効果があり現状がどれだけ良くなるから、何をすればいいのか、という計画の構築。</p>
<p>4)解決策 課題を解決する為の 方策やアイデア</p>	<p>把握すべき問題は深くて広く、複雑で一筋縄ではない→たくさんの人の知恵と経験を総動員したほうがいい→市民のライフスタイルを見直すという方向で、林業／木質系燃料の利用促進／農業／水／山やまちづくり等で活躍する名物プレイヤー達を呼んでサミットを開き、市民へのPRとアクションの布石にしよう。</p>
<p>5)行動計画 4月～9月</p>	<p>3月9日 京都市林業振興課、京都市森林組合との意見交換 3月28日 京都森林インストラクター開催のイベント（間伐体験、山歩き）に参加 4月 林業、森林バイオマス、農業、名水等に関わる方たちとの意見交換（サミット？開催） 5月以降 意見交換をふまえた課題整理及び行動計画の具体化</p>
<p>その後</p>	<p>机上の議論だけでなく、実際に現場を見たり、多くの方たちと意見交換を重ねることで解決策を考えていきたい。 また、イベントや啓発事業等を実施することやそのための仕組みづくりだけでなく、具体的に山との関わりをどのように広げ、山を健全な状態に戻すかを考えていきたい。</p>

議題チーム・概要

議題チーム No. 【 13 】

チーム名		D V S		チーム人数：10人
チームメンバー		チーム参加動機	こうしていきたい/ こんなことができる etc.	あなたを表す要素/所属/職 業/キャッチフレーズ etc.
1	山本晶子	もうかる京都をつくりたかったから。		
2	谷 昌憲	折角ある京都の財産をもっと生かしていきたい。		
3	立松裕規	伸びしろがある伝統産業の成長が今後の日本を支えるから		アニメが大好きです
4	堀田 樹	ビジネス頭 儲かる仕組み ←→ 地域 この関係を深めたい！！		学生、地域が大好きです。 長岡京でも活動しています！！
5	大木美穂子	伝統産業の活性化 地場産業の活性化	京都に住んでいる人にはもちろん、他地域の人達に知ってもらえるような宣伝・PR	
6	國枝克一郎	議長に落ちたので… 20～30～50 年後の京都は何で食っているのだろう。	雑学、雑経験はたくさんあります。	
7	井澤一清	議長として議題出しをして人が集まった。	伝統産業のプロデュースを していきたい。	
8	孝本浩基			
9	宇野雄哉			
10	更田 誠			

メインテーマ	伝統産業からのベンチャー企業の振興	リーダー： 立松裕規
サブテーマ	マーケティングプランの実行 伝統産業からのカーブアウト	サブリーダー： 堀田 樹 宇野雄哉
事務局との連絡役： 宇野雄哉		
チームの連絡体制 ルールなど		
その他		

議題概要

議題チーム No. 【13】 : DVS

<p>1)背景や問題の把握 現状に潜む 様々な問題の発掘</p>	<p>100年に1度と言われる経済不況により、わが国の産業全体が冷え込む中、京都の中小・ベンチャー企業への影響も大きく、経営の悪化や労働者の解雇等、様々な問題を引き起こしている。 一方、京都の伝統文化を支える伝統産業も、好不況に関係なく継続的に売上が低下しており、伝統を受け継ごうとしている若手人材が存在するものの、産業自体の将来性が危ぶまれている。</p>
<p>目的/動機/ 何の為に？</p>	<p>上記の問題に対し、少しでも役立つ提案ができないかと考え、地域おける社会的課題の解決に市民自らが当事者意識を持って参加できるスキームの検討と、伝統産業の次代を担う若手人材が活躍できる場を提供するためのスキームを検討し、京都産業の活性化に繋げていきたい。</p>
<p>2)最終目標 将来像理想像 究極の目標・理想像</p>	<p>提案したスキームが確実に実行され、京都経済の活性化につながることで、本スキームが京都発で、我が国のモデルとなり、他地域にも拡大することを目標にしたいと思います。</p>
<p>9月時点の ゴール像・到達点</p>	<p>各スキームを完成させ委員会に提案することと同時に、できれば各スキームが実際に動き出しているような状況をゴールとしたい。</p>
<p>3)解決すべき課題 <易しい課題></p>	<p>本チームでは、2つの視点で産業振興を捉えており、各々のスキームを検討するための情報収集を行い、コンセプトを明確(コンセプトメイキング)にすることと、各スキームの構築に向けた実行計画(アクションプラン)を検討することが必要である。</p>
<p><難しい課題></p>	<p>スキームを検討しても、実行できない内容では意味が無いため、実現可能性を探りながら、より具体的な内容に落とし込む必要がある。</p>
<p>4)解決策 課題を解決する為の 方策やアイデア</p>	<p>実行計画の具体性と実現に向けた更なる課題の抽出、並びに、実現可能性を探るために、行政をはじめとした関係者等へのヒアリングが必要。</p>
<p>5)行動計画 4月~9月</p>	
<p>その後</p>	

チーム名		京都の無駄を斬る六人の侍		チーム人数：6人
チームメンバー	チーム参加動機	こうしていきたい/ こんなことができる etc.	あなたを表す要素/所属/職 業/キャッチフレーズ etc.	
1	木村寿夫			
2	西嶋直和			
3	吉川哲雄			
4	坂田文保			
5	萩原三義			
6	今里 滋			

メイン テーマ	「市民参加と行政改革を考え提案する」学区自治のあり方を再構築 OR 別の組織作りから「市民力」を付けると見直しができるのでは?? これらのことを考え・実行するにも 「行財政改革」による財源の裏付けが必要	リーダー： 吉川哲雄
サブ テーマ	▼市議会議員の給与約12億+調査費約1億+アルファーについて考える ▼100人委員会は無報酬で休日に出て来ているのは、議員がやるべき仕事 をしているのではないか??という疑問について考える	サブリーダ ー： 木村寿夫
事務局との連絡役： 萩原三義		
チームの連絡体制/ルールなど		
その他		

議題概要

1)背景や問 題の把握	「京都の無駄を斬る六人の侍」チームが本来求めていることは、将来に亘っての市民の 活力が本当に発揮できる「財政の豊かさ」。 どんなに夢に充ちた、素晴らしい提言も裏付けとなる財源やその基礎となる財政体質が 脆弱では実行は出来ない!!企業の寄付頼みで「夢」が語れる時代ではない。
目的/動機/ 何の為に?	1. 市民自らが積極的に京都の未来づくりに参画し、かつ実行できる裏付けを含めての プランを提言できる基礎をつくる。 2. これまでの、チームメンバーの住民自治活動や市民活動経験、並びに国内・外の事 例から京都における現状の「都市経営」「意思決定」のあり方が唯一のあり方では ないと思われる。 3. 100年に一度の時期だからしっかり考えて・実行に繋げる。

議題概要

議題チーム No. 【 14 】： 京都の無駄を斬る六人の侍

<p>2)最終目標 将来像理想像 究極の目標・理想像</p>	<p>1. 地域主権の時代にふさわしい地方自治・京都に相応しい<住民自治>の実現 2. 安心・安全を基礎とする、<住みやすい・住んでよかった・住んでみたい>京都の実現 3. その財政的基礎となる京都に相応しい<都市経営>の確立 4. 『京都未来まちづくりプラン』の完全実施 5. 100人委員会からの提言が実行できる<京都市政>の実現</p>
<p>9月時点の ゴール像・到達点</p>	<p>メインテーマとサブテーマについて 1. 実現に向けてのプロセスの提言をまとめる 2. 基礎となる先事例の調査 3. 京都市の現状についての関係者に対するヒヤリング 4. 100人委員会メンバーを中心とした<市職員><専門家>や議会関係者をも含めた議論 5. 具体的な課題の抽出と議論</p>
<p>3)解決すべき課題 <易しい課題></p>	<p>まず！！100人委員会からの「提言」を 1) 誰が承認して 2) 誰が予算化して 3) 誰が実行するのか } のプロセスを明確にする → 事務局又は担当部局にプロセスの明示を求める</p>
<p><難しい課題></p>	<p>1) 100人委員会の内部でさえ「京都の無駄を斬る六人の侍」のスタンスが<見えにくい><真意が分からない>と思われる。 2) 「京都の無駄を斬る六人の侍」チームと運営事務局・幹事会との「100人委員会」自体のあり方、方向性について納得できる合意形成が出来ていない。 3) チームメンバーにも努力と時間の限界がある。</p>
<p>4)解決策 課題を解決する 為の 方策やアイデア</p>	<p>1) 100人委員会の内部でさえ「京都の無駄を斬る六人の侍」のスタンスが<見えにくい><真意が分からない>と思われる。 ↓ ① 賛成でも反対でもまず主張を分かってもらえる>問題の整理・発信の仕方を検討する ② アンケート等の方法も検討する ③ 賛同者をどう作っていくのか??の方策の検討 2) 「京都の無駄を斬る六人の侍」チームと運営事務局・幹事会との「100人委員会」自体のあり方、方向性について納得できる合意形成が出来ていない。 ↓ ① チームミーティングに事務局・幹事会や他のチームメンバーへの参加を呼びかける ② チャンスがあれば、あらゆる機会を活用！ 3) チームメンバーにも努力と時間の限界がある。 ↓ ① 作業プロセスを細分化し明確化して、事務局・100人委員会内部の資源・市職員 の能力と共汗精神をフル活用して、チームとしての生産性を上げる。 ② 具体的には、当面「知りたいこと」「必要な資料」と内容を明確にして、事務局に 提示する。</p>
<p>5)行動計画 4月~9月</p>	<p>今後も継続して、本議題チームミーティングへの他・多チームのメンバーへの参加を呼びかける！ 4月 <4月25日>議題チーム中間発表・交流会 7月 市長との意見交換 5月 総務部・行政改革課との意見交換 8月 市会議員との意見交換 6月 市会事務局との意見交換 9月 「提言」完成 市会議員以外に関しては、事務局から時期等の具体的な調整をお願いします。 市会議員については、100人委員会として議員個人々に宛「招待状」を出す。 上記の「意見交換」には、<100人委員会メンバーの皆さんに参加して頂く></p>
<p>その後</p>	<p>新聞報道等のあらゆる方法により、100人委員会内部のみではなく、広く京都市民全体に、京都市100人委員会・議題チーム「京都の無駄を斬る六人の侍」の問題提議の内容を知って頂く。</p>

『京都の無駄を斬る六人の侍』 追加資料

1. 百人委員会に与えられた<mission>は？

百人委員会が

- ・ 一体として
- ・ 各議題チームの基盤として
- ・ 各委員個人が委員としてある<権限と責任>の源泉として

共有「できる⇔すべき」ベースは何????

<p align="center">京都市 100 人委員会 設立の趣旨 <募集⇔応募>要項他</p> <p>「市民自らがテーマを設定し」「白紙の段階から議論する」「市民主体の委員会」「行動、実践を更に議論に反映させる」「京都の未来のまちづくりの方向性などについて自由に議論」「部会で議論するテーマは、全体会議の<議論>の中で決定」</p> <p>100 人委員会の運営手法である「ワールドカフェ」の考え方当初の名刺交換禁止軽装奨励手ぶらで結構</p> <p>みなさんが主役です！「この委員会は、委員のみなさん自身の手で作っていただきます。……あなた自身が<主人公>となって創り上げていただきます。私たちは誰もが<自主的>に、楽しみながら動くことができる<環境づくり>を全力で進めております。」</p>
<p align="center">京都市 100 人委員会 委員の立場</p> <p>京都市長 門川大作氏よりの委嘱 市長は何を期待しているのか？</p> <p align="center">「京都に住んでよかったね。」と言えるまちづくりを目指して</p> <p align="center">『京都未来まちづくりプラン』平成 21 年 1 月発行</p>
<p>現在のプランの評価？実行？ 市民参加の意味は？？</p> <p>未来づくりの意味は？？ 何が必要？</p> <p>何を考えるのか？？ どう行動するのか？？？</p> <p>次期基本計画の策定や 50 年、100 年先の京都の未来像を視野に入れた「提言」「方向性」を期待？？</p>

2. 「京都の無駄を斬る六人の侍」の基本的な視点

- 1) 100 年に一度の状況はチャンス！！である。
- 2) 100 人委員会からの「創造的」提案は、抜本的な「行財政改革」による財源の裏付が無ければ<絵に描いた餅>になる。
- 3) 地域主権・「共汗」・創造は<自主財政>が前提
- 4) 今・目前の課題に斬りこむ！！

3. チームミーティングの 開催実績等について

第 1 回 2009 年 2 月 15 日 (日) 午後 19:00 より

場 所:「フィンランディア 2 階」

参加者:木村壽夫・吉川哲雄・坂田文保・今里滋・本多幸子 (敬称略)
・萩原三義 (事務局:立花さん)

第 2 回 2009 年 3 月 7 日 (土) 午後 19:00 より

場 所:「ライフ吉川」木輪舎 (きりんや)

参加者:木村壽夫・吉川哲雄・坂田文保 (敬称略)・萩原三義 (事務局:飯田さん)

第 3 回 2009 年 3 月 22 日 (日) 午前 10:00 より午後 16:00 まで

場 所:相生鍼灸 2 階

参加者:木村壽夫・吉川哲雄・坂田文保 (敬称略)・萩原三義 (事務局:飯田さん)